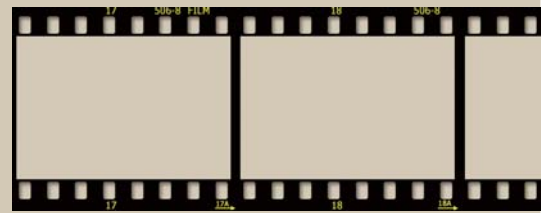


戦後 70 年
平和企画

2015 年度 春季特別企画
山本宗補写真展
戦後はまだ…
刻まれた加害と被害の記憶



会期中、来館者からたくさんのご感想が寄せられました。その中から掲載を許可いただいたものをご紹介します。

私（一人ひとり）が、真実を直視し行動しなければ加害者になると痛感しました。真実を伝えていただいているジャーナリスト山本宗補さん、特別展を開催していただいた立命館大学国際平和ミュージアムさんに感謝しています。

（京都府 50代 自営業）

高校歴史教育で、どこまで 15 年戦争をあつかうことが出来るだろうか。圧倒的に足りない授業時間の中で、困難な課題を日本中の高校教員が抱えている。また、政治家や圧力団体が高校の授業内容に踏み込み、担当教員を祭り上げる事件が実際に起きている。良心を持って「戦争の被害と加害」を教える教員が排除されている。どうすればこのような現状を変えられるのだろうか。困難な課題を共に乗り越えてゆく一歩一歩が大切になる。今回の展示はそのような多くの「良心」を勇気づけるものだ。

圧力に負けず、次々と展望を切り開いて下さい。その後ろを必ずついてゆきます。怖くて先頭にはたてませんが。

もっと宣伝しましょう。GWなのにガラガラです。伝えてこそ意味があります。ソーシャルメディアをもっと有効活用して下さい。英語で海外にもっと発信して下さい。

（京都府 30代 教育関係者）

余りにも知らない情報が多く、消化に時間がかかりそうです。今日得られた知識をもとに、私もコツコツ勉強していきたいと思います。戦争マラリアの件も初めて知りました。戦争でこれだけ民間人を殺したのに、天皇に対する責任を免除し、ミナマタ病も起こし、原発事故の責任も誰も取らない日本はCrazyだと感じます。

（京都府 50代 自営業）

もっとじっくり伺いたかった、見たかった。
時間不足？また来ます！

（京都府 60代 教育関係者）

70

コメント（キャプチャー）を読むと、よく理解できる。太平洋戦争では、戦闘ではなく、病気で死んだ人の方がはるかに多いことは知っていたが、コメント（キャプチャー）を読むと、その現実味がよく分かる。モノクロの写真の力強さをあらためて感じた。フィルム→RCペーパーにプリントされていると思うが、ディティールがよく出ている。（滋賀県 50代）

大変意義ある展示会です。日本人全員に見てもらいたい。戦争がいかにバカげたものか、騙し、偽りによってはじめられたものが、経験者の証言によってはっきりとわかります。今この時だからこそ、皆が知らないと又同じ事が繰り返されます。もっと広く多くの日本人、世界の人にみていただきたい。☆企画展以外に常設展示も見た後なのでふらふらになりました。全部読みたくても読めませんでした。内容が濃すぎるので喫茶コーナーなど休けい施設か、再入場システムがあった方がよいかも思いません。とても意義があるミュージアムです。どんどん宣伝して一人でも多くの人に見てもらいたい。

(50代)

お一人おひとりの証言は重く貴重な物でした。B1Fのミュージアムも貴重な資料でしたが、余りにも内容が重く濃く、半分しか見ることが出来ませんでした。来ることが出来感謝しています。一私立大学である立命館が平和教育の為にしっかりしたコンセプトに立ち、これだけのミュージアムを運営していることに驚きました。私がおこをもっと多くの方に知って欲しいし、見て欲しい。伝えていきたいと思えます。

(愛知県 60代 自営業)

私たちが今平和に暮らしていることの有難さと過去の歴史について考えるいい機会となりました。憲法9条について子どもたちに話をしていく資料としてとても良かった。ただ、時間がなくすべてをじっくり見、読むことが出来なかったのが残念です。(三重県 40代 教育関係者)

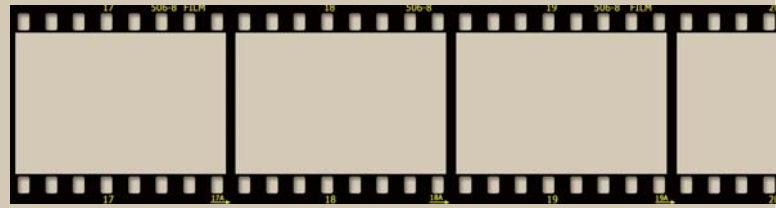
70

何回来ても戦争について深く考えさせられます。私の過ごしている今が平和なのか、ここに来たら疑問に感じてしまうくらい、今世界ではたくさんの事が起こっています。自衛隊などのこれからのあり方について考えなければならない。

(20代 学生)

高齢になられた戦争体験者の表情を写真で拝見し、それぞれの説明の文章を併せ、重い気持ちになった。特に慰安婦とされた人について、様々な報道のあり方の議論があったが、本当のところはどうだったのか、ずっとよくわからず、事実をはぐらかされた感があった。今回の写真展を通じて「やっぱりそうだった」と被害に遭われた方がいる事実があり、日本人のひとりとして深くお詫びしたい気持ちになった。

(大阪府 60代 学童保育指導員)

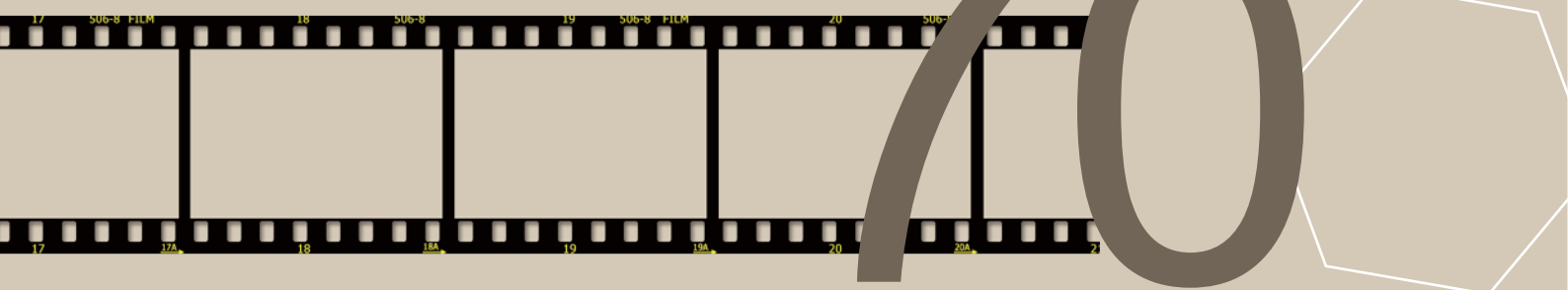


時間に制約があった為、せっかく来たのに全部をしっかりと読むことが出来ず残念です。現在の政府のやり口を見るにつけ、戦争の体験談を遺すこと、特に日本人の加害についての体験をしっかりと遺し、若い人達にきちんと理解できるようにすることが本当に大切なことだと痛感しました。
(大阪府内 30代 学童保育指導員)

戦後 70 年の節目を迎えると共に、戦争体験者が日々減っていることに危機意識を感じた。私が大学で学んでいる歴史学はどうしても史料を通して過去のできごとを考えなければならない。そのためあまり歴史にリアリティを感じる事ができない。それに対して今回の展示は戦争体験者の貴重な経験を伝えてくれるものであり、当時のことを肌身ももって感じる事ができたような気がする。日々の日常は何気なく過ぎていき、「戦争」という記憶も少しずつ忘れられていってしまう。「平和」を深く考えることは今日ますます重要になってきている。そのようなことを伝えてくれる展示でした。
☆今後も「平和」を深く考えることができる展示を企画して行って欲しい。
(京都市 20代 学生)

※戦争は何があってもあってはならない物と痛感した。あまりにむごい事ばかりで胸が痛む。
(埼玉県 50代 会社員)

私は東日本大震災の被災地、福島県双葉郡富岡町で育った者です。昔も今も変わらない「傷をおった人に対する国の考え」を写真を見ることでまた感じました。戦争をまたする国にしようとしている今の日本のお偉いさんたちに程、このような写真展は見て頂きたいものです。
(茨城県 20代 会社員)



あの戦争を理解するには、多くの視点を通して初めて理解できるのだなと思いました。

(京都府 10代 国関 1回生)

写真展との思いで来館しましたが、説明文が重要である事からすべてを読むのに時間がかかりました。立ちながらでは少々しんどいです。体験談は知らない事が多く有りました。日本全国に広く伝えられる事が出来ないものかと感じました。明治以降の近代の歴史を多く学ぶ事が、国際人として若い人々には必要ではないでしょうか。(滋賀県内 60代 会社員)

70

本特別展を通して感じたのが戦争に対する認識というもの、また、その関心が現代の人々と、大きく異なっている事でした。この度の特別展で語って下さっている方々の多くは、日本の歴史教育の中で、どこかしらに、学んだ、事柄に関わっている人々でした。しかし、平成の歴史教育を受けてきた大学生である自分には、その当事者である方々の心情まで学ぶ事はありませんでした。このような本特別展は、これからの日本において、日本のこれからの、社会、政治を担う学生にとって、とても大きな意味を持たざるを得ないと痛感しております。というのも、歴史を学ぶ上で、全体を俯瞰する視点はもちろん重要ではありますが、我々はその大きな歴史の中で、個人のもつ感情、意識から抜け出すことが出来ません。大きな歴史の流れの中でも、(今流れている時間の中でも)個人という意識の中でしか生きることが出来ないのです。このように、歴史の中から当事者の体験、心情を学ぶ事に大きな意義があると思いました。本展示を開催して下さい本当にありがとうございました。(兵庫県 20代 他大生)

今まで広島、沖縄(那覇、ひめゆり、伊江島、海軍)の資料館で資料や証言を見てきましたが、この特別展は日本による被害を受けた人たちのことが包み隠さず伝えられているのが、他と少し違うものだと思います。加害と被害の記憶を知ることができましたが、例えば二度と同じ過ち(戦争)を繰り返さないために、何をしなければならないのかを具体的に表してもらえれば、知るだけで終わらず行動に移せるかなと思いました。大学附属の平和ミュージアムなので学生にアクションを起こさせるようなきっかけを作ってほしいです。(大阪府内 20代 他大生)

私は今の自分にできることは知ることだと思っています。なので、実際に体験された方のお話を一部ではあるけれど、一度の機会に知ることが出来るというのは、本当にありがたいです。今回の展示を見ていて、中国の方への認識がまず変わりました。日本人の国民性として穏やかだと言われることがありますが、どこが穏やかに見えるのか、残酷な事ばかりじゃないかと改めて怒りが湧いてきました。ただ、この穏やかであるのは、この戦争の反省から変化してきたことだと思います。どうか、全ての苦しんだ人々が、望む救いの形が全員に届いて欲しいと思ってるし、届けるのは私たちだと思いました。

(京都市内 10代 本学学生)

私は広島出身です。京都に来て(他の県にもいましたが)15年くらい経ちますが、広島の前爆の事は他府県の方は、それほど詳しくご存知ないなと時々感じます。同じように私も広島以外の事はよく知らないことが多いと思います。私のおじいさんは中国に出兵されていましたが、その事について詳しく聞いた事はありません。学校の課題があった時もそんなひどい話聞いたことはありません。おじいさんは話したくなかったのかもしれないし、私もそれ以上聞くのが怖かった気がします。戦後70年になり、私自身何かできることから平和を考えようと思って今回見に来ました。直接、見聞きする話が一番リアルで人の心に訴えていると思います。

(京都市内 30代 会社員)

故人の方々であっても「伝える」ことができるのは写真の魅力だと思う。これをきっかけにリアルな戦争というものを正しく認識できると思った。

(京都市内 20代 文3回生)

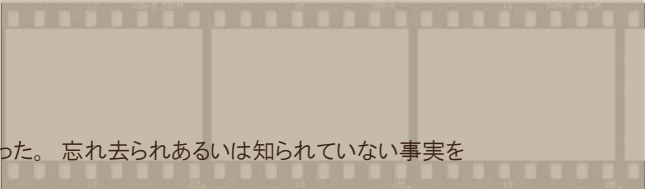
70

語る事が辛い過去でも、私たちに伝えようとしてくださる勇気ある方々だと思いました。特に笑顔の写真のご夫婦には人間の強さを感じました。

(京都市内 20代 法4回生)

一人一人の体験が文章を通して伝わってきた。写真展なら写真を通して残酷さを伝えることは容易だけれど、文章は心にとどまりやすいと思った。もし、もし戦争がなかったらパネルに出てきた人々の人生は大きく変わっていたのかもしれないと思うと辛い。

(大分県 20代 APS3回生)



一点毎読んでいくと共に胃が痛くなり終わり頃には写真だけで説明が読めなくなった。忘れ去られあるいは知られていない事実を読むにつけ、思いおこし、これからの生き方、平和を求めての運動に努力したい。

(京都府内 70代以上)

戦争被害については教えられてきたが「加害」については軽くふれる程度。悪いのは「日本軍」で「日本人」は被害者の立場にのみある事になっている風潮に疑問が湧いていました。「加害」を実感できない事が(特に)中国、韓国との溝をうめられなくなっている原因の一つだと思いました。よそ様の土地に土足で上がり、踏み散らかしていく。それを行ったのはまぎれもなく自分達の祖先なのだ。人は簡単に悪魔になる。それは誰にでも起こりえる事。『加害』が事実であった事を実感する事は大切だと痛感しました。〔過去は忘れる事はないが赦すことができる。それが中国の態度です〕忘れてはいけない大切な想いと心に刻んでおきます。

(兵庫県内 50代 主婦)

どれも初めてみるものばかりで本当に心が苦しくなった。いつまでも平和が続きますように。

(10代 本学学生)

平和憲法改悪の今こそこのような戦争の被害者、加害者の声を国民がきちんと聞き戦争のおろかさを知らないといけない。展示の中に「戦争はいつの間にか知らない間に始まってしまった」というような文言があったが、今がその時なのではないかと恐ろしくなった。安倍首相の軽い感じの言葉に乗せられて日本国民はまた戦争への道を歩み始めていると感じる。国民一人一人、政治家、大臣みんながこの展示を真剣に見学したら、そう簡単には戦争法案は通らないだろうと感じた。ありがとうございます。もっともっと多くの人に見学してほしい。

(大阪府内 50代 教育関係者)

70

歴史は代を重ねるごとにうすくなってしまふけれど、ここでは濃いものが見れ、語り継がなければいけないと思った。あたり前のことなんて、一つもないと思う。


(神奈川県 10代 中学生)

自分が今まで知らないことがありすぎておどろくほど、多くの工夫がありました。「もっと知りたい」という感情がすごくでてきました。

(神奈川県 10代 中学生)

1945年に10才の人が、戦争を現実的に知る最後の世代だろうと考えています。その彼らが、この世からいなくなるだろう2035年には、新たな戦争が起こる世相になっているのではないかと感じています。人間は環境次第でどうにでも変わりうる生きもの。本特別展示はそれを語っています。平和を失わないこと、それが大事。

(大阪府内 60代 自営業)



様々なことにショックを受けました。人間は戦争となると何でもできてしまうんだと感じました。憲法 9 条は私達が何としても守っていかなければならない使命だと思いました。

(大阪府内 10代 本学学生)

様々な場所で被害を受けられた方の言葉を一つ一つ見ていく内に、こんな悲惨な戦争というものを二度と起こしてはならないと改めて痛感しました。お話されている方の写真が、その方が受けた戦争の状況を書いたカードとともにあるのがより説得力があり、心に迫ってきました。

(京都府内 10代 本学学生)

戦争は恐ろしいものだとなった。もうやりたくないなあ。

(京都市内 10代 中学生)

奈良のシネマテイクの映画会で福島菊次郎さんの映画を見て、よく似た、弱い立場、だまされた人、抵抗しきれない人、戦争の残酷さを録った(映した)写真家がいる事を知り、是非見たいと思った。安倍首相の無知、無恥の戦争法案の強行には驚くし、危険極まりなく怒りを持つ。世間は「裸の王様」「アメリカ(オバマ)の腹話術人形」と笑っているのに都合の悪いことは聞こうとも見ようもしない。国の借金も武器や戦闘機を買わずに国民のくらしのために使っていない。こんな人をトップにすえた有権者にも責任がある。つらい事だが体験者は死ぬ前に語ったり書き記しておくべきです。

(奈良県 60代 パート)

これからの平和を築いていくのは…オレ達だ!と決心した。

(京都市内 10代 中学生)

多くの戦争体験者を見つけ出して、そのお一人一人と向き合って口に出したくないと思っていたであろう出来事について聞き取っている山本さんの真摯な姿勢に心打たれました。写されている年齢を加えた深いしわに対する尊敬の念のようなものをそれぞれの写真に感じました。言葉で「平和」と訴えるのは、人間として当たり前態度だと思えますが、自分の心に深く刻むことが求められるのだらうと思います。そうすると声高で訴えることは出来なくなるようにも思うのです。こちらのミュージアムのようなメッセージ性の高い場で、常設されている展示があるのは素晴らしいことです。

(千葉県 60代 大学通信教育部)

「戦争」とは何かという問いに対して答えてくれていると感じた。「戦争」はいつも語る、説明するとなると思想が入ったりしてしまう。要するに戦争ではなく「平和」を語ってしまうことがよくある。でもこれは写真という方法でこの問いかけに真剣に答えていると思う。何の思想も混じらない写真であるのに、はっきりと答えている。(10代 専門学校生)

70

僕自身も元軍人の孫として、平和については、真剣に考えなければならぬと思ひ、戦争について学んでいかなければいけないと思ひ、足を運んでいます。今の国の情勢を考えると、危ない方向へ進んでいる様で、不安いっぱいです。1人でも多く、戦争というものを学び、今の進んでいる方向が正しいのかを考えていって欲しいと思ひます。

(京都市内 40代 自営業)

